

平成27年度事業報告書

1) 事務局経営戦略課

1 複数館を利用した公益目的事業の推進

(1) 学習目的での施設利用の推進

平成26年度末に作成した「学びにおいでよ！授業の流れに対応した協会施設利用ガイド」ポスターを増刷し、宮崎市教務主任会での配布および、大淀川流域の市町立小中学校対象学年の全学級へ、各教育委員会を通じ配布した。

また、学習目的での施設利用を目的にバスを借り上げ、利用促進を図った。

ガイドポスター：2市（都城市、小林市）2町（三股町、高原町）

小学校59校348部、中学校30校231部 配布

バス利用小中学校数 3校 バス利用台数 9台

(2) 子どものための音楽会の開催

需要が高い乳幼児とその保護者を対象とした演奏会を、複数の施設を管理運営する利点を生かし、年間を通して各施設において開催した。

実施回数 10回 参加者数 延べ 2,332人

(3) どっぷり体験合宿の実施

宿泊活動を通して、児童の科学的な理解や創造性を深め、郷土を愛する心を培うことを目的に、当協会が管理運営する各施設及び生目の杜遊古館において、科学・歴史・芸術文化分野の体験活動を実施した。

コース 自然・科学コース～不思議な映像を作ろう！～

歴史・文化コース～しし舞と遊ぼう！～

実施回数 2回 参加者数 延べ 22人

2 地域活性化への取り組み

(1) 回想法による福祉連携推進事業の実施

地域の方々からの寄贈によって収集した昔の生活用品等を活用し、「回想法」による福祉分野との「博福連携」に引き続き取り組んだ。認知症支援のイベントにも参加し、当協会の取り組みの告知および職員の研修を行った。

また、回想法貸出セットの体制を整備し、介護サービス施設への貸出を行った。

貸出実績 3回（1回につき1週間）

(2) 地域ミュージアム化構想推進事業の実施

地域資源の発掘や再認識ができる企画の研究を進めるプロジェクトチームを設置し、協会の管理する各施設も地域のミュージアムとして認識されるよう、また、「地域が一つのミュージアム」となるような事業に取り組んだ。

内容 第1回 コンパクトカメラと見つける「まちぶらりウォッチング」
実施回数 1回 参加者数 8人

(3) 出前授業等の実施

各施設が、地域における教育文化施設として認識され、地域とのつながりや地域活性化に貢献することを目的に、学校や地域団体に対してアウトリーチ活動を実施した。

実施プログラム数 10プログラム

実施小中学校数 39校 実施団体数 13団体 延べ3,050人

3 協会経営の自主性、自立性の確保

(1) 公益財団法人宮崎文化振興協会モニターによるモニタリング

利用者の意見を協会の事業に反映させるため、1市2町（宮崎市・綾町・国富町）の在住者を対象にモニターを公募し、アンケート協力や協会への提言等、協会運営への意見をいただいた。9月に意見交換会を実施し各施設の改善に生かした点等を報告した。

意見交換会 1回 モニター人数 20人

(2) 職員研修の実施

職員の資質向上のため、協会全体の年間研修計画を作成し研修を実施した。

協会全職員研修、法規研修、特別研修（レベルアップ）を実施した。

研修回数 12回 職員参加者数 延べ 214人

(3) 研究事業の実施

協会職員が、指定管理者の業務達成に貢献できると認められる研究について、職員にその費用の一部又は全部を補助し実施した。

また、平成28年2月18日（木）に研究事業成果発表会を開催し、応募研究の中から優秀研究を選出し、平成28年2月25日（木）に研究事業表彰式を実施した。

研究本数 12本 研究者数 延べ 21人

4 広報活動について

協会ホームページや宮崎市広報誌の催し・講座欄などを活用して、各施設のイベントや取組みについて広報を行った。

(1) 宮崎文化振興協会レターの発行

当協会の日頃の事業成果について、役員等の協会関係者にタイムラグなくお伝えするために、毎月発行した。

発行回数 12回

(2) 協会機関誌「まなぶんか」の発行

単なるイベントの開催日時の紹介だけでなく、イベントの目的や開催するに至った経緯等を利用者に詳しく紹介する協会機関誌を年4回発刊し、友の会(宮崎科学技術館)、県内小・中学校、各支援学校、博物館等施設、1市2町（宮崎市・綾町・国富町）の宮崎銀行各支店、入館者等に配布した。

A4版8ページ、カラー印刷、季刊で各5,000部（年4回）

2) 宮崎科学技術館

1 管理運営事業

平成26年度から3か年の指定管理を受け、平成27年度においても展示室、パソコン研修及びプラネタリウム事業等の円滑な運営を行うための保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	305日	プラネタリウム投映日数	295日
入館者数	158,950人	利用者数	67,858人
1日平均入場者数	521人	1日平均利用者数	230人

※12/1～1/19のうち8日間プラネタリウム改修

(2) 利用内訳

① 入館者数(小人・大人)内訳

小人	82,165人(51.7%)
大人	76,785人(48.3%)
合計	158,950人

② 入館者数(個人・団体)内訳

個人	136,361人(85.8%)
団体	22,589人(14.2%)
合計	158,950人

③ 県内教育利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育園	6,291人(46.6%)
小学校	5,407人(40.1%)
中学校	538人(4.0%)
高等学校	82人(0.6%)
一般(参考)	1,173人(8.7%)
合計	13,491人

・広域圏外

幼稚園・保育園	1,101人(13.8%)
小学校	4,652人(58.2%)
中学校	375人(4.7%)
高等学校	52人(0.6%)
一般(参考)	1,817人(22.7%)
合計	7,997人

④ 県外団体利用内訳

幼稚園・保育園	187人(17.0%)
---------	-------------

小学校	156人 (14.1%)
中学校	0人 (0.0%)
一般 (参考)	758人 (68.9%)
合計	1,101人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	29	1,008	91.5
四国	0	0	0.0
中国	0	0	0.0
関西	0	0	0.0
中部	1	27	2.5
関東	2	66	6.0
東北	0	0	0.0
北海道	0	0	0.0
合計	32	1,101	100.0

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	2	82	8.1
佐賀	1	21	2.1
長崎	0	0	0.0
熊本	10	391	38.8
大分	2	76	7.5
鹿児島	13	415	41.2
沖縄	1	23	2.3
合計	29	1,008	100.0

2 常設展示事業

アポロ11号月面着陸船原寸大模型をはじめとした大型の展示物の他、先端科学技術を集約した展示物は約100点にのぼる。来館者が体験を通して科学の不思議や自然の素晴らしさに気付くことに努め、科学に対する興味・関心を深めさせることができた。

特に、老朽化した展示物については、コストを抑えつつ修繕を行うなど、最大限の効果的活用を努めた。

3 教室事業

(1) 科学実験・工作教室

子どもたちに「科学の芽」を育てるためのサイエンス教室や、高齢者と一般の人を対象にした「生きがい科学館」、子どもから大人まで楽しめるサイエンスショーや工作教室などを、JSCや宮崎大学のボランティア学生とともに実施した。

① チャレンジサイエンス	実施回数	30回	参加者数	延べ	6,755人
② ダ・ヴィンチ工房	実施回数	6回	参加者数	延べ	122人
③ 生きがい科学館	実施回数	8回	参加者数	延べ	54人
④ 不思議なサイエンスショー	実施回数	10回	参加者数	延べ	1,697人
⑤ 宮崎少年少女発明クラブ	実施回数	20回	参加者数	延べ	559人
⑥ ロボットクラブ (前期・後期)	実施回数	20回	参加者数	延べ	694人
⑦ どろだんご教室	実施回数	2回	参加者数	延べ	132人
⑧ 科学技術週間工作教室	実施回数	2回	参加者数	延べ	208人
⑨ 自由研究サポート教室	実施回数	3回	参加者数	延べ	26人
⑩ なんでもサイエンス(インストラクター)	実施回数	20回	参加者数	延べ	1,809人
⑪ コスモランド教室	実施回数	11回	参加者数	延べ	2,305人

(2) パソコン講座

パソコンについての基礎的な技能を習得するとともに、パソコンに対する興味・関心を高める場として、小学生から高齢者までの幅広い人を対象に開催した。

①	ハガキ作成講座	実施回数	5回	参加者数	延べ	92人
②	デジカメ講座	実施回数	3回	参加者数	延べ	41人
③	パワーポイント講座	実施回数	1回	参加者数	延べ	59人
④	パソコン入門講座	実施回数	3回	参加者数	延べ	317人
⑤	ワード講座	実施回数	5回	参加者数	延べ	496人
⑥	続ワード講座	実施回数	4回	参加者数	延べ	172人
⑦	ワード応用講座	実施回数	2回	参加者数	延べ	210人
⑧	エクセル講座	実施回数	5回	参加者数	延べ	493人
⑨	続エクセル講座	実施回数	3回	参加者数	延べ	133人
⑩	エクセル応用講座	実施回数	3回	参加者数	延べ	286人
⑪	すいすいパソコン	実施回数	24回	参加者数	延べ	1, 418人
⑫	友の会パソコン講座	実施回数	16回	参加者数	延べ	143人

4 プラネタリウム事業

3万8千個の星々を映し出す恒星投映機や全天ビデオ投映システムを生かし、一般番組や学習番組の投映を行った。また、平成26年12月に全天ビデオ投映システムの改修工事、平成27年12月から翌年1月に恒星投影機のオーバーホールを行い、より鮮明で迫力ある映像を安定した動作で投映できるようになり、更なるサービスの向上に努めた。

入場者数 63, 511人 (※通常投映番組のみの観覧者)
投映回数 1, 038回

(1) 一般番組

- ・永久投映権をもっている番組
「星になったチロ」「オズのまほうつかい」「むしむし星空大行進」「今夜銀河の片隅で」
- ・26年度から引き続き投映した番組
「銀河鉄道999」
- ・27年度から投映した新番組
「ドラえもん 宇宙ふしぎ大探検2」「ナットのスペースアドベンチャー」「星のせせらぎ」
「ポケットモンスターXY」「Back To The Moon」「ダイナソートラベラーズ」「おじゃる丸」

(2) 学習番組

- 「ピーターパンとほしのくにへいこう」(幼児向け)
- 「スタジオ444」(小学4年生向け)「ポワンとフーニャンの宇宙調査隊」(小学6年生向け)
- 「この空に願いを込めて…」(中学生向け)

(3) 自主製作番組

- 「ひむか神話～太陽の女神・アマテラス」

(4) 星空教室

プラネタリウムホールを利用して、幼児から一般を対象に、季節の星座や神話、天文の基礎を紹

介し、天体や宇宙の基礎的な認識を深めるとともに、興味・関心をもってもらよう努めた。

実施回数 10回 参加者数 延べ 458人

(5) 中秋の名月大観望会 (元 市民天体大観望会)

宮崎科学技術館に隣接する中央公園広場にて星空の観望会を計画したが、当日雨天のため実施できなかった。

実施中止

(6) スターウォッチング教室

1市2町(宮崎市、綾町、国富町)の団体を対象に、応募団体の希望の場所へ出向き、天体の基礎的な学習と実際の天体観察を行った。望遠鏡などを用いて体験してもらうことで天体や宇宙への興味・関心をもってもらよう努めた。

実施回数 7回 参加者数 延べ 706人

(7) スターウォッチング教室 in まちなか

中心市街地の活性化及び広報の場として、「スターウォッチング教室」を市街地(橋通り3丁目交差点 MRTテラススタジオ前広場)で計画したが、天候悪化のため準備した望遠鏡は活用できなかった。また、日食の観望会等も計画したが天候が悪く中止した。

実施回数 1回 参加者数 延べ 300人

(8) 皆既月食観望会

当日までの1週間は、プラネタリウムの通常投映でも皆既月食の解説を行い、天文現象の学習と観望会の周知も行った。当日は曇が出て、皆既月食を見ることができると大変心配したが、何とか観察することができた。時間が経つにつれ赤みを増していく月の姿に宇宙の面白さを参加者と共有することができた。

実施回数 1回 参加者数 延べ 180人

(9) プラネタリウム親子学習教室(新規事業)

学校での天文学習の補充と深化を目的に、小学校4年生および6年生向けの学習プログラムを行った。大変多くの応募があり、事後の感想も好評であった。夏休みの自由研究の題材として月の記録方法なども解説をした。

実施回数(各1回) 2回 参加者数 延べ 427人

(10) 特別投影

本館の企画展に合わせて、特別投影を行った。南極展に合わせた「南極の星空体験」を3回、企画展恐竜ロボットファクトリーに合わせた「恐竜時代の星空を見てみよう!」を3回実施した。職員が準備した画像や、普段は見ることのできない星空を投影した。

実施回数 6回 参加者数 延べ 273人

5 文化振興事業

(1) 星空と音楽の夕べ

宮崎出身者や現在宮崎で活躍している音楽家の活動の場を提供するとともに、市民文化活動高揚に資するため、プラネタリウムホールで開催した。音楽の生演奏と星の解説、そしてCD音楽の解説という3部構成でのコンサートを実施した。

実施回数 3回 参加者数 延べ 488人

(2) キラキラ星空コンサート

「星空と音楽の夕べ」より気軽に楽しんでもらおうと、平成18年度からスタートしたコンサートであり、県内で活躍されている演奏家によるコンサートを実施し、幼児から高齢者までの幅広い年齢層の人に楽しんでもらった。

実施回数 2回 参加者数 延べ 420人

(3) ヒーリングSPACE

プラネタリウムホールの有効活用を目的として、中学生以上を対象に、星空やヒーリング番組の投映・音楽鑑賞を通して、癒しの効果を体感してもらうように努めた。

実施回数 4回 参加者数 延べ 553人

(4) イブニングプラネタリウム

多くの市民がプラネタリウムをさらに利用しやすい環境整備を目的として、閉館後の時間帯に、星空の生解説及び番組投映を行った。更に、希望者には屋外で星空観望会も実施した。

実施回数 13回 参加者数 延べ 700人

(5) スターフェスティバル

多目的ホールを利用して、来館者を対象に、国際光年をテーマに国立天文台制作のパネルや映像コンテンツを展示し、天体や宇宙の基礎的な認識を深めるとともに、興味・関心をもってもらえるよう努めた。また、手作りプラネタリウムによる投影や、宇宙のなどを行い、宇宙への興味・関心を高めてもらう良いきっかけとなった。

実施回数 1回(10日間) 参加者数 延べ 631人

(6) 絵本の読み聞かせ in プラネタリウム

プラネタリウムホールの有効活用を目的として、幼児から一般を対象に、ドームスクリーンを利用した大型絵本の読み聞かせや映像による演出を通して、プラネタリウムホールを幅広く体感してもらうように努めた。

実施回数 10回 参加者数 延べ 1,198人

(7) キッズプラネタリウム

幅広い世代のプラネタリウム利用拡大を目的として、通常暗いプラネタリウムを明るく子ども向けの星空の解説を行った。

実施回数 12回 参加者数 延べ 810人

6 イベント事業

(1) 主催事業

①企画展「恐竜ロボットファクトリー」(新規事業)

ロボットの製作工程を7つのコーナーに分けて展示した。ロボットは恐竜ロボットをテーマに設定し、恐竜ロボットの製作工程を体験的な展示物で学ぶことができた。期間中はアンモニアの消しゴム作りや、キーホルダー作りなど、企画展に合わせた工作教室も実施した。巨大なロボット恐竜や動作をプレイバックするロボットに驚きつつも興味を示す来館者が多かった。期間中、多くの報道機関に取り上げていただいた。

開催期日 平成28年2月6日(土)～2月21日(日)
入場者数 延べ 9,075人

②こいのぼり掲揚式

近隣の幼稚園・保育園を招き、正面玄関前でこいのぼり泳がせ式を行った。また、招待した園児には手作りのこいのぼりをプレゼントした。

開催期日 平成27年4月17日(金)
参加者数 子ども 48人、大人 5人 延べ 53人

③「科学と遊ぼう!こどもの日」

全館を無料開放し、こどもの日にちなんだ多彩な催しを実施した。

開催期日 平成27年5月5日(火・祝)
入場者数 延べ 8,000人

④地球を守ろう環境展(第7回)

地球環境問題やリサイクルなどについての興味・関心を高めてもらうために、「地球環境世界児童画コンテスト」優秀作品50点の常設や実験・工作教室、ネイチャーゲーム等を行った。

開催期日 平成27年5月16日(土)～5月31日(日)
入場者数 子ども 690人、大人 943人 延べ 1,633人

⑤油井宇宙飛行士 ドッキング・ハッチオープン パブリックビューイング

油井宇宙飛行士が搭乗したソユーズ宇宙船と国際宇宙ステーションとのドッキングおよびハッチオープンの様子を大型スクリーンにてライブ中継した。また、同時に油井宇宙飛行士やロケット、国際宇宙ステーションについての解説を行った。

開催期日 平成27年7月23日(木)
入場者数 子ども 70人、大人 57人 延べ 127人

⑥「感謝のつどい 七夕まつり」

全館を無料開放し、七夕にちなんだ多彩な催しを実施した。

開催期日 平成27年7月5日(日)
入場者数 延べ 5,857人

⑦南極の氷贈呈式&サイエンスショーおよび関連パネル展

南極にまつわるパネル展示や、極地研からの南極の氷贈呈式・南極の氷を使った実験を実施した。また、関連イベントとして、プラネタリウムにて「南極の星空探検」と題した特別投映や「南極大陸横断ウルトラクイズラリー」も実施した。

開催期日	パネル展	平成27年7月10日(金)～7月26日(日)	
	贈呈式	平成27年7月19日(日)	
	南極の星空体験	平成27年7月11日(土)・7月12日(日)	
	クイズラリー	平成27年7月18日(土)・7月25日(土)	
入場者数	パネル展	子ども1,269人、大人1,449人	延べ 2,718人
	贈呈式	子ども 43人、大人 45人	延べ 99人
	南極の星空探検	子ども 46人、大人 55人	延べ 101人
	クイズラリー	子ども137人、大人 11人	延べ 148人

⑧命の科学フェア

「なるほど！なっとく！人体の科学ゾーン」と「なるほど！なっとく！防災の科学ゾーン」の2つのエリアで心臓マッサージ体験や心電図検査などと、防災グッズ工作や起震車の体験など体験を通した学習を計画した。命について科学の目でみる機会となった。

開催期日 平成27年 8月 2日（日）

入場者数 子ども 533人、大人 360人 延べ 893人

⑨WRO(World Robot Olympiad) J a p a n 2015宮崎大会

子どもたちが市販のキットで自律型ロボットを製作し、そのロボットを使って競技会を実施した。ロボットを制御するコンピュータのプログラムも子どもたちに開発させた。地方大会として小・中・高の3部門を実施し、それぞれの部門の代表チームが国内決勝大会（東京）に出場した。

開催期日 平成27年 7月30日（木）

入場者数 子ども 149人、大人 151人 延べ 300人

⑩子どものための音楽会（事務局経営戦略課事業）

協会が管理運営する6施設において、乳幼児とその保護者が気軽に参加できる演奏会を、地元アーティスト等による生演奏により開催した。各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とした。

開催期日 ①平成27年 7月 8日（水）

②平成28年 1月27日（水）

内 容 ①エトヤンヤンヤン（パーカッション・ピアノ・歌唱）による演奏

②楓の会（箏・フルート）による演奏

参加者数 ①子ども106人、大人141人 延べ 247人

②子ども 77人、大人 83人 延べ 160人

⑪青少年のための科学の祭典2015・宮崎大会

小中学校・高校の理科教諭、大学関係者と連携し、科学や科学技術の不思議さや楽しさを身近に体験できる実験ブースの出展をし、科学の面白さを実感してもらうとともに、科学および科学技術に対する関心を高める活動を実施した。

開催期日 平成27年 8月7日（金）～ 9日（日）

入場者数 延べ 6,798人

⑫第22回宇宙画作品展

児童・生徒の創造性の育成を図り、宇宙及び宇宙開発に関する興味・関心を高めるため、宇宙をテーマにした絵画作品を展示した。また、11月22日（日）には、絵画作品入賞者を対象に、表彰式を実施した。

開催期日 平成27年11月 7日（土）～11月23日（月・祝）

入場者数 子ども 742人、大人 708人 延べ 1,450人

⑬JSC（ジョイフルサイエンスクラブ）フェスティバル&科学技術館シルバーdays

敬老の日になみ、65歳以上の方と同行された家族を対象に、全館無料開放を実施した。

開催期日 平成27年9月19日（土）～21日（月・祝）

入場者数 子ども 423人、大人 335人 延べ 758人

⑭みんなでお昼に“はやぶさ”トーク

12月3日の小惑星探査機“はやぶさ2”による「地球スイングバイ」を目前に、応援イベントとして重要ミッションのスイングバイや今後のはやぶさの進路についての説明を行った。

開催期日 平成27年11月29日(日)
入場者数 子ども4人、大人6人 計10人

⑮サイエンスカフェ

各種イベントと関連のある科学者を招き、その開催時期に合わせて、サイエンスカフェを実施した。科学者と市民を結ぶ仲介役としての科学技術館の活動であり、科学の普及・啓発に努めた。

開催期日 平成27年7月26日(日)・9月26日(土)・10月3日(土)
参加者数 子ども34人、大人53人 延べ87人

⑯ナイトミュージアム(新規事業)

館内を夜間開館し、中秋の名月に合わせて館内の月関連展示物を謎解きしながら、月への興味・関心を高めた。同時開催予定だった「中秋の名月観望会」は雨天で中止となった。

開催期日 平成27年3月27日(金)
参加者数 子ども68人、大人48人 計116人

⑰アウトリーチ事業

館外で実験教室や授業支援を行い、教育施設の支援や、イベントや市街地の活性化の取り組みを行った。

・鉾脈社 秋の大感謝祭ワークショップ(フローランテ宮崎)

参加者数 子ども35人、大人25人 延べ60人

・どろだんご教室(佐土原総合文化センター)

参加者数 子ども36人、大人18人 延べ54人

・子育て応援フェスティバル2015

参加者数 子ども300人、大人150人 延べ450人

・宮崎市立榎小学校4年3組 学習支援

参加者数 小学4年生30人 延べ30人

・若草通り「街市」

参加者数 子ども50人、大人200人 延べ250人

(2) 共催事業 ()は主催者名

①航空教室

実施日 平成27年8月1日(土)

(航空大学校)

平成28年1月23日(土)

入場者数 子ども47人、大人54人、延べ101人

②宮崎ミニ水族館

実施日 平成27年9月23日(水)～27日(日)

(宮崎大学農学部)

入場者数 子ども1,012人、大人1,178人、延べ2,190人

③県学校発明くふう展

実施日 平成27年10月16日(金)～18日(日)

(宮崎県発明協会)

入場者数 子ども283人、大人342人、延べ625人

④宮崎市中学校毛筆展

実施日 平成27年10月23日(金)～11月5日(木)

(宮崎市中学校書写部会)

入場者数 子ども373人、大人551人、延べ924人

- | | |
|---|--|
| ⑤こども電波教室
(宮崎県電波適正利用推進員協議会) | 実施日 平成27年10月31日(土)
入場者数 子ども 19人、大人 12人、延べ 31人 |
| ⑥県特別支援学校アート展
(県特別支援学校アート展事務局) | 実施日 平成27年11月25日(水)～29日(日)
入場者数 子ども 181人、大人 323人、延べ 504人 |
| ⑦宮崎地区サイエンスコンクール展
(科学夢チャレンジ事業宮崎地区実行委員会) | 実施日 平成27年12月 5日(土)～25日(金)
入場者数 子ども 325人、大人 409人、延べ 734人 |
| ⑧宮崎市中学校硬筆展
(宮崎市中学校書写部会) | 実施日 平成28年 1月 9日(土)～21日(木)
入場者数 子ども 299人、大人 408人、延べ 707人 |
| ⑨ディスカバリーキッズ科学実験館
(宮崎ケーブルテレビ(株)) | 実施日 平成28年 3月 5日(土)
入場者数 子ども 100人、大人 120人、延べ 220人 |

3) 【みやざき歴史文化館】

1 管理運営事業

平成26年度から3か年の指定管理を受け、平成27年度のみやざき歴史文化館の管理運営業務を行い、施設の維持管理及び展示物等の円滑な運営を行うため保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	310日
入館者数	60,641人
1日平均入館者数	196人

(2) 利用内訳

① 入館者数(小人・大人)内訳

小人	32,314人(53.3%)
大人	28,327人(46.7%)
合計	60,641人

② 入館者数(個人・団体)内訳

個人	53,354人(88.0%)
団体	7,287人(12.0%)
合計	60,641人

③ 県内教育利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育園	1,524人(45.8%)
小学校	1,770人(53.2%)
中学校	30人(1.0%)
合計	3,324人

・広域圏外

幼稚園・保育園	0人(0%)
小学校	94人(100%)
中学校	0人(0%)
合計	94人

④ 県外団体利用内訳

一般	223人(100%)
小学校	0人(0%)
中学校	0人(0%)
合計	223人

⑤ 県外地域別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州	6	127	57.0
四国	0	0	0.0
近畿	1	8	3.6
中国	0	0	0.0
中部	0	0	0.0
関東	1	63	28.2
東北	0	0	0.0
北海道	1	25	11.2
合計	9	223	100.0

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0.0
佐賀	0	0	0.0
長崎	1	11	8.7
熊本	0	0	0.0
大分	1	37	29.1
鹿児島	3	54	42.5
沖縄	1	25	19.7
合計	6	127	100.0

2 常設展示事業

宮崎の考古・歴史、民俗・民俗芸能、神話、民具等に関する資料を展示し、見て、触れて、楽しく学びながら歴史・文化に親しみ、郷土を理解する場を提供した。

3 企画展示事業

(1) 企画展『歴史文化館のあゆみ展』 『歴史3館合同収蔵品展』

平成26年度に行った各種体験学習や本館を訪れた小学校等の説明や体験活動等の様子をパネルで紹介した。また、併設で、歴史3館の収蔵資料を活かした展示、平成26年度に新たに当館に収蔵された物を展示した。

開催期日 平成27年5月17日(日)～6月14日(日)

入場者数 3,635人

(2) 夏の企画展『昭和ってどんな時代?』

宮崎市域の「昭和時代」にまつわる鳥瞰図や絵画類のほか、家電などの暮らしの道具、戦時中に使用された代用品、玩具などを展示し、昭和がどのような時代であったのか学んで頂く機会とした。

開催期日 平成27年7月18日(土)～8月30日(日)

入場者数 16,064人

(3) 秋の企画展『モノの見方展』

宮崎市内から発掘された出土品、極楽寺寄託の仏像及び掛軸、往来手形などのモノ(資料)を展示し、宮崎市内ゆかりの「モノ」(資料)のみどころとともに、様々な分野に分かれる資料の基本的な見方を紹介しながら、造形などから読み取れる資料の奥深さを再発見して頂く機会とした。

開催期日 平成27年10月10日(土)～11月29日(日)

入場者数 7,600人

(4) 年中行事『宮崎の正月展』

宮崎県内に伝わる正月の風景、代表的な飾り、伝統行事等を実物、模型、写真パネル等で紹介した。注連縄、餅つき道具、昔の正月のおもちゃ、正月飾りや料理、神社の絵馬、伝統凧などを展示した。

開催期日 平成27年12月12日(土)～平成28年1月11日(月・祝)

入場者数 2, 619人

(5) 企画展『文化財を護る!』 『歴史文化館のひな祭り』

博物館等施設における資料管理での敵(虫菌害など)から資料を護る味方(文化財IPMに基づいた環境作りや資料の管理方法)をパネルで紹介した。また、併設で、これまでに寄贈されたひな人形を中心に展示しながら、ひな人形の歴史についても解説した。

開催期日 平成28年2月6日(土)～3月6日(日)

入場者数 3, 776人

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 講座

①宮崎の歴史文化講座

宮崎の歴史・文化について、歴史研究家の方々を講師として実施した。

実施回数 5回

参加者数 延べ 163人

②古文書講座

みやざき歴史文化館ボランティア会員を講師として、古文書【高千穂山裏村百姓逃散日記】の解読演習を行った。

実施回数 15回

参加者数 延べ 384人

(2) 史跡探訪会

県内の史跡や建造物等の文化財を訪ね、それぞれの文化財に対する理解と関心を深めるとともに、文化財への愛護意識を啓発する目的で実施した。

【1回目】子どものための日向神話めぐり

開催期日 平成27年 8月9日(日)

見学地 江田神社 みそぎ池 木花神社 青島神社 鶴戸神宮

講師 みやざき歴史文化館学芸員

参加者数 21人

【2回目】都城・霧島方面の史跡めぐり

開催期日 平成27年10月25日(日)

見学地 霧島神宮 島津寒天工場跡 乙房神社の田の神様 田島かくれ念仏洞

講師 みやざき歴史文化館学芸員

参加者数 21人

【3回目】宮崎の伝承めぐり

開催期日 平成27年11月22日(日)

見学地 竜泉寺跡 城ヶ崎俳人墓地 恒久神社 日之御崎観音寺 今泉神社

講師 みやざき歴史文化館学芸員

参加者数 17人

【4回目】宮崎の伝承めぐり

開催期日 平成28年 3月13日(日)

見学地 竜泉寺跡 城ヶ崎俳人墓地 恒久神社 日之御崎観音寺 今泉神社

講 師 みやざき歴史文化館学芸員
参加者数 20人

(3) 体験学習

サツマイモの栽培・収穫等の農耕体験学習や昔の人々の暮らしと関連した「竹を使ったおもちゃ作り」等の製作体験学習を行うもので、子どもと保護者、一般の参加者を対象に実施した。

農耕体験学習	実施回数	3回	※つる返し作業は、雨天のため中止
	参加者数	延べ	156人
製作体験学習	実施回数	23回	
	参加者数	延べ	637人

(4) 学校教育との連携

学校教育において体験学習が重視される中で、当館でも学校教育への支援活動を行った。主なものは、隣接する住吉南小学校「歴史文化体験クラブ」が当館を利用しての体験学習(全14回)や、教育委員会の助成制度等を利用しての当館見学(18校)があった。見学の際は「昔の道具」「厩屋」「古代住居」などの展示説明や石臼体験などの体験学習も行った。

5 イベント事業

(1) 「こどもの日」イベント

鎧・兜の試着、紙兜作り、メンコ作り、まが玉作り、竹とんぼ・鶯笛作り、史跡公園ウォークラリー、野点ほか多数のイベントを実施した。

開催期日	平成27年5月3日(日・祝)～5月5日(火・祝)
参加者数	延べ 3,382人

(2) 夏休みイベント

① 「史跡公園 生き物採集教室」

開催期日	平成27年8月1日(土)
内 容	蓮ヶ池史跡公園をめぐりながら、昆虫などの生き物を採集
参加者数	37人

② 「魚のつかみ取り」

開催期日	平成27年8月8日(土)
内 容	館の前にプールを設置し、アユのつかみ取りを実施
参加者数	102人

③ 「夏休みの楽しい工作」

開催期日	平成27年8月20日(木)
内 容	万華鏡作り
参加者数	43人

(3) 子どものための音楽会(事務局経営戦略課事業)

協会が管理運営する6施設において、乳幼児とその保護者が気軽に参加できる演奏会を、地元アーティスト等による生演奏により開催した。各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とした。

開催期日	①平成27年9月10日(木)
------	----------------

	②平成27年 2月17日(水)
内 容	①長谷川愛、神崎充、衛藤和洋(ボーカル、キーボード、ギター、パーカッション)による演奏 ②Music Cocktail(サクソ、キーボード、ボーカル)による演奏
参加者数	①子ども143人、大人158人 延べ 301人 ②子ども 44人、大人 50人 延べ 94人

6 資料収集、調査・研究

- (1) 資料収集について公共施設を中心に情報提供を呼びかける広報を行い、市民より歴史・民俗資料3点の寄贈があった。
- (2) 資料管理について検討を行い、協会研究報告書に報告を掲載した。

4) 【宮崎市佐土原歴史資料館】

1 管理運営事業

平成26年度から3か年の指定管理を受け、平成27年度の宮崎市佐土原歴史資料館の管理運営業務を行い、施設の維持管理及び展示物等の円滑な運営を行うため保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	304日
入館者数	25,229人
1日平均入館者数	83人

(2) 利用内訳

①入館者数(小人・大人)内訳

小人	7,094人(28.1%)
大人	18,135人(71.9%)
合計	25,229人

②入館者数(個人・団体)内訳

個人	20,436人(81.0%)
団体	4,793人(19.0%)
合計	25,229人

③県内教育利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育園	1,709人(50.3%)
小学校	1,150人(33.9%)
中学校	538人(15.8%)
合計	3,397人

・広域圏外

幼稚園・保育園	0人 (0%)
小学校	101人 (100%)
中学校	0人 (0%)
合計	101人

④ 県外団体利用内訳

一般	122人 (100.0%)
小学校	0人 (0.0%)
中学校	0人 (0.0%)
合計	122人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	3	39	32.0
四国	0	0	0.0
中国	1	3	2.4
関西	2	66	54.1
中部	0	0	0.0
関東	1	5	4.1
東北	0	0	0.0
北陸	1	9	7.4
合計	8	122	100.0

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0.0
佐賀	0	0	0.0
長崎	0	0	0.0
熊本	0	0	0.0
大分	1	25	64.1
鹿児島	2	14	35.9
沖縄	0	0	0.0
合計	3	39	100.0

2 常設展示事業

(1) 鶴松館

江戸期の佐土原城二の丸居館の一部発掘調査をもとに想像復元した「鶴松館」では、掛軸・屏風・鎧兜などや、佐土原島津家の調度品を展示するとともに、地元で伝承される佐土原人形を展示している。藩主が日常政務をとる場の外観を再現した書院では、古代から近現代にかけての佐土原の歴史を各時代の資料を展示して解説している。

(2) 佐土原出土文化財管理センター

ここでは、展示研修室で農具・民具などの民俗資料常設展示と、展示室で企画展を開催している。屋外では、出土遺構をもとに、佐土原藩の「御普請所」建物の基礎部分を保存し、また収蔵庫等に於いては佐土原町域の文化財・歴史資料の収蔵・保存をしている。

(3) 商家資料館 旧阪本家

江戸時代から味噌や醤油の醸造販売を手がけていた商家「旧阪本家」(明治 38 (1905) 年築重層入母屋造(平入)(市指定有形文化財・市景観重要建造物))を資料館として、1階に机や銭箱などを配した帳場を再現し、2階に当時の商いに関する資料や町並みの古写真を展示している。

3 企画展示事業

(1) 企画展「五月人形展」

子どもたちの健やかな成長を願い、商家資料館において、武者や「馬乗り軍人」等の郷土の端午の節句人形（佐土原人形）と画家 弥勒 祐徳 氏による佐土原人形の水彩画（色紙絵）等を併せて展示し、また他の地域の土人形も展示した。

開催期日 平成27年4月25日（土）～5月24日（日）

入場者数 延べ 608人

(2) 企画展「歴史3館合同収蔵品展」

みやざき歴史文化館・宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館と共に新規収蔵資料や普段公開されない資料を相互借用し、その他当館所蔵の刀剣類も併せて展示しながら佐土原藩の関連史資料も展示した。

開催期日 平成27年7月4日（土）～9月6日（日）

入場者数 延べ 962人

(3) 企画展「佐土原島津家の書画」

佐土原は、島津家が治めた城下町であるという歴史的文化的素地をもっており、当館所蔵の史資料や関係機関から島津家に関する資料等を借用しながら、当時の佐土原藩島津家に関するパネル展を行った。

開催期日 平成27年10月24日（土）～1月24日（日）

入場者数 延べ 1,673人

(4) 企画展「ひな人形展」

子どもたちの健やかな成長を願い、商家資料館に佐土原人形の雛人形（内裏雛や歌舞伎人形、女兒をモチーフとした風俗人形等）等を展示し、併せて県外の一部の土人形も展示した。

開催期日 平成28年2月6日（土）～3月20日（日・祝）

入場者数 延べ 864人

4 歴史文化振興・教育普及事業

講座

(1) 歴史文化講座「郷土を学ぶ」

古代日向、古代天皇等について、及び江戸期の佐土原藩の情勢や佐土原の地名、並びに多くの寺社等が存在するのでそれらに関する講座を実施した。

実施回数 6回

参加者数 延べ 182人

(2) 古文書講座

みやざき歴史文化館ボランティアの会員を講師に、佐土原藩島津家の日記「佐土原藩島津家在所日記」（天明2年）の解説を実施した。

実施回数 8回

参加者数 延べ 134人

(3) 体験学習

城下町佐土原に古くから伝わる工芸品等の製作及び城跡の自然環境を活用し、昔のくらしと文

化にまつわる体験学習を、子どもとその保護者、一般の参加者を対象に実施した。

実施回数 9回（8講座）

参加者数 延べ 250人

（4）史跡探訪会、及び文化財探訪バスツアー

資料館近隣の史跡や文化財、及び伊東氏・島津氏ゆかりの地を探訪し、それぞれの文化財に対する理解と関心を深めるとともに、郷土愛を育み、文化財愛護の意識を高めた。

『第1回』史跡探訪会

開催期日 平成27年9月27日（日）

講師 原田 義生 氏

見学地 平等寺・久峰観音・十六烈士墓地

参加者数 23人

『第2回』史跡探訪会

開催期日 平成27年10月18日（日）

講師 野村 稔子 氏

見学地 大光寺・高月院・巨田神社・佐野原聖地

参加者数 25人

『第3回』史跡探訪会

開催期日 平成27年11月15日（日）

講師 小林 康生 氏

見学地 黒貫寺(西都市)・大安寺(西都市)・都於郡城跡(西都市)・巨田神社

参加者数 21人

『第4回』文化財探訪バスツアー

開催期日 平成27年11月29日（日）

案内 島津邸歴史資料館ガイド(3名)

見学地 祝吉御所跡地・島津伝承館・都城歴史資料館・都城狭野神社・神柱宮神社

参加者数 31人

5 イベント事業

（1）さどわら鯨こども祭り（共催事業）

佐土原城の駅(いろは館)が平成27年2月にオープンしたのを機に、いろは館と共催にて子供を対象に市内外からの集客を図り、鎧・兜を試着し史跡文化財等を巡るイベントを実施し全箇所訪れた子どもに粗品を提供した。

開催期日 平成27年5月3日(日・祝)～5日(火・祝)

参加者数 延べ 286人

（2）佐土原花しょうぶ祭り（共催事業）

佐土原花しょうぶまつり実行委員会主催で同委員会と共催にて、鶴松館裏庭の花しょうぶ園で第

1 1 回花しょうぶ祭りを実施した。

開催期日 平成27年5月30日(土)～5月31日(日)

内 容 花しょうぶ園付近にて開会行事を行い、また野点・大正琴の演奏・コーラス等を実施し、隣接する鶴松館では地元の音楽愛好家による楽器の演奏や歌等を行い、城の駅においては軽トラ市等を実施し集客を図った。

参加者数 延べ 3,993人

(3) 佐土原人形作り(共催事業)

佐土原人形伝承会主催事業で、郷土の伝統的工芸品である佐土原人形を後世に末永く伝えていく事を目的にし、同会と共催にて毎月1回人形作りを佐土原出土文化財管理センターにて実施した。

開催期日 平成27年4月～平成28年3月(毎月第2木曜日)

参加者数 17人(延べ204人)

(4) 島津太鼓フェスティバル(共催事業)

平成26年2月に開催した「島津入城410年祭」を機に、地元の歴史を絶やさないように、毎年1回イベントを実施している。なお、主催はまちおこしの団体である「島津太鼓フェスティバル実行委員会」で、当館はイベントに併せ佐土原藩島津家に関するパネル展を行った。

開催期日 平成28年2月11日(木・祝)

参加者数 大人69人、子ども31人 延べ100人 ※ただし、パネル展の見学者数

(5) 神代独楽回し大会(自主事業)

佐土原に江戸時代から下級武士の内職として作られ、端午の節句のお祝品として伝えられてきた神代独楽を使ったこま回し大会を開催した。

開催期日 平成28年1月9日(土) 10:00～12:00

内 容 佐土原伝統的工芸品保存会協力のもと、児童の部と一般の部に分けて、こまが回っている時間で勝敗を決し優勝された人に賞品を贈った。

参加者数 計27人

(6) 子どものための音楽会(事務局経営戦略課事業)

協会が管理運営する6施設において、乳幼児とその保護者が気軽に参加できる演奏会を、地元アーティスト等による生演奏により開催した。各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とした。

開催期日 ①平成27年6月4日(木)

②平成27年11月11日(水)

内 容 ①リベラハーブアンサンブル(ハーブ、フルート)の演奏と地元音楽愛好家によるギターと尺八による演奏

②岩切邦光(橘太鼓 響座)による和太鼓演奏と地元音楽愛好家によるギターと尺八による演奏

参加者数 ①子ども93人、大人94人 延べ187人

②子ども68人、大人83人 延べ151人

6 資料収集、調査・研究

(1) 資料収集

市民より斧・鋸・分銅、棹秤等の寄贈、及び和鏡・古銭・古書・鏝・薬莢等の寄贈が有り、計644点の寄贈を受けた。

(2) 資料調査

民具、農具、土人形等の民俗資料や系図等の歴史資料に関する15件の問合せが有り、それらの資料調査を行った。なお内3件が寄贈に至っている

(3) 研究活動

レファレンスや資料調査に関し、佐土原藩士家系に関する調査や外部研究機関からの史料の翻刻依頼に対応した。また当館主催や公民館等へのアウトリーチ活動としての講座の実施に際し、佐土原の通史や佐土原の寺社に関しての研究を行った。

(4) レファレンス及び資料の特別利用対応

個人及び出版社、報道機関、研究機関等からの佐土原の歴史等に関する問合せ(約83件)や当館収蔵資料の書誌掲載等の利用に関する問合せ(29件)の対応を行った。

5) 【宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館】

1 管理運営事業

平成26年度から3か年の指定管理を受け、平成27年度の宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館の管理運営業務を行うとともに施設の維持管理及び展示物等の確実な保存、保管を行うため、保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	314日
入館者数	21,821人
1日平均入館者数	70人

(2) 利用内訳

① 入館者数(小人・大人)内訳

小人	8,790人(40.3%)
大人	13,031人(59.7%)
合計	21,821人

② 入館者数(個人・団体)内訳

個人	17,662人(80.9%)
団体	4,159人(19.1%)
合計	21,821人

③ 県内教育利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育園	162人(4.7%)
---------	------------

小学校	3,290 人 (95.3%)
中学校	0 人 (0.0%)
合 計	3,452 人

・ 広域圏外

幼稚園・保育園	0 人 (0.0%)
小学校	16 人 (100.0%)
中学校	0 人 (0.0%)
合 計	16 人

④ 県外団体利用内訳

小学校	0 人 (0.0%)
中学校	0 人 (0.0%)
一 般	137 人 (100.0%)
合 計	137 人

⑤ 県外地域別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州	5	109	79.6
四国	0	0	0.0
中国	0	0	0.0
近畿	0	0	0.0
中部	0	0	0.0
関東	0	0	0.0
東北	0	0	0.0
北海道	0	0	0.0
海外 (香港)	1	28	20.4
合計	6	137	100.0

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0.0
佐賀	0	0	0.0
長崎	0	0	0.0
熊本	1	27	24.8
大分	2	47	43.1
鹿児島	2	35	32.1
沖縄	0	0	0.0
合計	5	109	100.0

2 常設展示事業

大淀川とともに生きてきた旧高岡町の人々の生活ぶりや薩摩藩の外城として栄えた江戸時代の高岡、穆佐の武家社会の様子などを資料や映像などの展示を通して紹介している。見て、触れて、楽しく学びながら歴史・文化に親しみ、郷土愛を培う場を提供した。

3 企画展示事業

(1) 企画展「大淀川物語展」

開催期日 平成27年4月11日(土)～5月17日(日)

入場者数 延べ 1,975人

内 容 高岡の大動脈である大淀川と「ひと、もの」との関わりを歴史・考古・

地誌・民俗・自然・災害の観点からアプローチし、川のあり方やふるさとを再認識してもらう展示を行った。

(2) 企画展「歴史3館合同収蔵品展」

開催期日 平成27年6月6日(土)～7月5日(日)

入場者数 延べ 794人

内 容 平成26年度に引き続き、歴史3館それぞれの収集資料を活用して展示を行った。廃校になった学校や存続中の学校の懐かしい学用品などや写真の展示、そして高岡出身の偉人ビタミンの父、高木兼寛の勤勉さや優しい心遣いを思い起こさせる写真やゆかりの品々などを展示した。また、みやざき歴史文化館から住吉の極楽寺に安置されていた貴重な仏像や佐土原歴史資料館からは佐土原城などの瓦、弥勒祐徳氏の水彩画などを借用して展示した。

(3) 企画展「平成版 高岡名勝志展」

開催期日 平成27年7月18日(土)～9月23日(水・祝)

入場者数 延べ 2,360人

内 容 江戸末期に高岡を初めとした郷内の史跡・名勝・村里などの詳しい資料を書き残した「高岡名勝志」に記載されている高岡町に残る神社・仏閣・名勝地の位置図や写真などを展示した。帰省、行楽のシーズンに多くの人に見ていただき、高岡めぐりのヒントにしていただいた。また、今回も「高木兼寛」のミニ展示も行った。

(4) 企画展「高岡の絵描きさん展」

開催期日 平成27年10月17日(土)～11月23日(月・祝)

入場者数 延べ 2,706人

内 容 当館が所蔵している高岡町にゆかりのある画家4名の絵画と高岡町の風景等を描いたスケッチなどを展示した。高岡町出身の伊達孝太郎、抽象画家の吉加江京司、透明水彩画の雨田正、数多くの受賞歴のある女流作家の富山栄子の4名の画家と高岡をこよなく愛し、人々の暮らしぶりや伝統芸能をボールペンで描いた野崎哲の作品を展示した。また、この期間にワークショップとして「草木染め」を実施した。18名の参加があり好評であった。

(5) 企画展「昔の道具展」

開催期日 平成27年12月12日(土)～平成27年2月14日(日)

入場者数 延べ 4,889人(ただし、授業支援の人数を含む)

内 容 小学校3年生の社会科で取り扱う「古い道具とむかしの暮らし」等の学習に資することを目的として当館所蔵の古民具や写真等を展示した。多くの年配の方が見学され懐かしがっておられた。また、授業支援を受けた多くの生徒も来館し見学していた。

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 古文書講座

黒木弘一氏を講師に招き、明治維新以降の社会情勢についての古文書資料の解説を行っていただ

いた。人数は少なかったが熱心な受講生が多く、講師の丁寧な説明に聞き入っておられ、好評であった。

実施回数 全6回 参加者数 延べ 32人

(2) 体験学習

伝統的なおもちゃを中心とした製作や草木染め、芋ほり、かまど炊飯、ミニ門松作りなどの体験学習を行うもので、主に宮崎市近郊在住の子どもとその保護者を対象に実施した。

実施回数 全9回 参加者数 延べ 303人

(3) 天ヶ城歴史文化講座

①史跡めぐり

史跡や資料館を訪ね、歴史・文化に対する理解と関心を深めるとともに文化財愛護意識を高める目的で実施するものである。今回は小林、えびの地区の文化財や史跡をめぐるバスツアーを行った。

開催期日 平成28年3月6日(日)

講師 当館学芸員(施設によっては当該施設の職員による解説)

見学地 紙屋関所跡→東麓石窟仏→二原遺跡公園→えびの市歴史民俗資料館→木崎原古戦場跡(三角田、六地藏塔・元巣塚・太刀洗川、首塚)→飯野のイチョウ(鶴寿丸供養碑)→伊東塚

参加者 26人

②歴史講演会

毎年、高岡に関連する歴史・民俗分野の講演会を実施している。今回は宮崎県民俗学会の副会長の那賀教史氏をお招きして、高岡と関わりのある人々について時代を追って講演していただいた。

開催期日 平成27年11月8日(日)

講師 那賀 教史 氏

演題 高岡に生きる 一時代と人を追って一

参加者 7人

(4) 授業支援事業「むかしの道具たち」

資料館に収蔵している昔の道具を活用し、小学校の社会科における「変わってきた人びとの暮らし」の学習等の充実に資することを目的として実施した。

対象 宮崎市、綾町、国富町内の小学校

方法 事前に学校へカタログを配布し、申し込みのあった学校に道具を運搬して、当方の管理下で道具の活用を支援した。(うち10件については、当館にて実施) 授業においては、古い道具を見たり触れたりする見学体験活動を十分行ったのち、児童の質問に応じて、道具についての解説を行った。

実施回数 全39回実施(うち10件については、当館にて実施)

参加者数 延べ 3,296人

5 イベント事業

(1) 秋はしっとり天ヶ城

創作神楽を公演している日向橘寿獅子七人衆を招き、当館2階展示室を講演会場として神楽の

上演を2回実施し、好評だった。その他、クイズラリー、野点、輪投げ、くじなどの縁日コーナー、竹ぽっくり、竹とんぼ、コマ回し、シャボン玉などの遊びコーナーなどを設けた。多くの親子連れが来館され、大いに楽しんでいただいた。

期 日 平成27年11月23日（月・祝）

参加者数 延べ 387人

(2) 子どものための音楽会（事務局経営戦略課事業）

協会が管理運営する6施設において、乳幼児とその保護者が気軽に参加できる演奏会を、地元アーティスト等による生演奏により開催した。各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とした。

期 日 ①平成27年10月22日（木）

②平成28年 3月17日（木）

内 容 ①P!P!P!（フルート、パーカッション、キーボード、ボーカル）による演奏

②かみもと千春、神崎紀代美、谷口潤美（ボーカル、キーボード、パーカッション）による演奏

参加者数 ①子ども119人、大人129人 延べ 248人

②子ども 91人、大人 87人 延べ 178人

6 資料収集、調査・研究

歴史・民俗資料を中心とした資料（足踏みミシン、うどん製麺機、らくがん菓子製作用型の3点）の寄贈があった。

6) 大淀川学習館

1 管理運営事業

平成26年度から3か年の指定管理を受け、大淀川学習館の適切かつ円滑な管理運営業務を行うため、展示物の工夫等を行うとともに、施設の維持管理、保守・点検などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	309日
入館者数	184,728人
1日平均入館者数	598人

(2) 利用内訳

① 入館者数(小人・大人)内訳

小人	101,591人(55.0%)
大人	83,137人(45.0%)
合計	184,728人

② 入館者数(個人・団体)内訳

個人	164,632人(89.1%)
団体	20,096人(10.9%)
合計	184,728人

③ 入館者数(広域圏内 学校団体・広域圏外 学校団体・一般団体)内訳

・ 広域圏内 学校団体

幼稚園・保育園	6,374人(60.1%)
小学校	4,096人(38.5%)
中学校	84人(0.8%)
特別支援学校	29人(0.3%)
大学・短期大学	30人(0.3%)
合計	10,613人

・ 広域圏外 学校団体

幼稚園・保育園	329人(14.8%)
小学校	1,799人(81.1%)
中学校	0人(0%)
特別支援学校	91人(4.1%)
大学・短期大学	0人(0%)
合計	2,219人

・ 一般団体

医療・福祉	2,679人(36.9%)
教育	2,226人(30.6%)
その他	2,359人(32.5%)
合計	7,264人

④ 県外団体利用内訳

一般	0人 (0.0%)
小学校	10人 (100%)
中学校	0人 (0.0%)
合計	10人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	0	0	0.0
四国	0	0	0.0
中国	0	0	0.0
関西	0	0	0.0
中部	0	0	0.0
関東	0	0	0.0
東北	1	10	100.0
北海道	0	0	0.0
合計	1	10	100.0

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0.0
佐賀	0	0	0.0
長崎	0	0	0.0
熊本	0	0	0.0
大分	0	0	0.0
鹿児島	0	0	0.0
沖縄	0	0	0.0
合計	0	0	0.0

2 展示事業

(1) 常設展示

大淀川及びその流域の自然、文化、歴史などについて、みて、ふれて、楽しみながら河川環境に対する学びを深めるため、季節に応じた生体の展示を行った。また、エントランスホールでは、メキシコサラマンダー（ウーパールーパー）など、珍しい生体も展示した。

(2) 生体展示

① 自然楽習園がくしゅう

自然楽習園がくしゅうでは、子どもたちの自然を観察する力を向上させるため、園内に小川を再現し、チョウの食草や蜜源植物を育てている。季節ごとのチョウの姿を自然に近い状態で再現しており、学習効果を高めるために、生体の状況に応じた説明板の設置など、解説の工夫も行っている。平成16年度からチョウの飼育業務を外部委託しており、常時100頭以上の個体を維持している。平成27年度の総放蝶数は5, 535頭に及んだ。

② 生体展示ホール

360度観察可能な円型水槽を2台設置した。水槽内には、海水魚と大淀川水域の魚を展示している。来館者の中心となる小さな子どもたちに人気のある生体を充実させ、また、子どもたちの視線の高さも考慮しながら、より観察しやすい場所に配置換えするなどの工夫を行った。

③ ホタル展示室

ホタルビオトープのリニューアルをはじめとするホタル羽化率向上の取り組みの結果、自館内で22匹のホタルの羽化に成功した。また、成虫だけでなく、長い期間を過ごす幼虫の姿の観察活動を促すことで学習効果を高めることができた。

(3) 企画展示

① 特別企画展 「水の生き物と仲良くなろう！ザリガニ展」

- 内 容 生き物とのふれあいを通して生命の素晴らしさに気づかせるとともに、在来種と外来種について正しい知識をもたせ、大淀川流域の自然を大切にしようとする意識を育てるために、アメリカザリガニを多数展示し、ザリガニ釣りを体験したりする活動を行った。
- 開催期日 平成27年4月11日（土）～6月14日（日）
- 入場者数 延べ 37, 626人
- ② 特別企画展 「森の生き物と仲良くなるろう！カブトムシ・クワガタムシ展」
- 内 容 大淀川流域や世界で見られるカブトムシやクワガタムシの生態や生息環境についての理解を深め、昆虫への興味・関心を高めるために、カブトムシを自然に近い状態で放し飼いにするとともに、夜間の活動のようすも観察することができるように遮光できるコーナーをつくり展示した。
- 開催期日 平成27年7月4日（土）～8月31日（月）
- 入場者数 延べ 66, 353人
- ③ 企画展 「ちょっぴり怖い生き物展」
- 内 容 ヘビやゴキブリなど、日ごろあまり観察する機会の少ない生き物についての理解を深めるため、生体の展示を行った。
- 開催期日 平成27年9月5日（土）～10月12日（月・祝）
- 入場者数 延べ 18, 134人
- ④ 特別企画展 「水の生き物と仲良くなるろう！ドクターフィッシュ体験」
- 内 容 様々な水の生き物の一つとして、人の角質を食べてくれる珍しい魚「ドクターフィッシュ」を多数用意し、設置したプールでの体験活動を行った。
- 開催期日 平成27年9月12日（土）～10月18日（日）
- 入場者数 延べ 17, 676人
- ⑤ 企画展 「でっかくまなぼう 小さな生き物展」
- 内 容 生き物への興味・関心を高めるため、身近な動植物をマクロ撮影し、色や形をわかりやすく伝えるとともに、肉眼では見ることができない微細なつくりとその役割がわかる展示を行った。
- 開催期日 平成27年10月24日（土）～11月23日（月・祝）
- 入場者数 延べ 12, 039人
- ⑥ 企画展 「カラー魚拓への誘い」
- 内 容 カラー魚拓の展示を通して、魚の形や色、模様などの特徴を鮮やかに伝え、魚類への興味・関心を高めるために、地元のアマチュア愛好家たちの作品を展示した。
- 開催期日 平成27年12月1日（火）～平成28年1月11日（月・祝）
- 入場者数 延べ 9, 861人
- ⑦ 企画展 「幸せかもん！カメカメ展」
- 内 容 新年を迎えるにあたって、古来より縁起の良い生き物とされるカメを展示し、カメにまつわる昔話なども織り交ぜたパネル展示も行った。カメに直接ふれることのできるイベントも開催した。
- 開催期日 平成28年1月5日（火）～1月31日（日）
- 入場者数 延べ 9, 001人

- ⑧ 企画展 「県産材積み木で遊ぼう！」
 内 容 宮崎県産材で作製した「からから積み木」を大量に準備し、自由な発想のもと家族等で作品を制作し、完成品と一緒に写真撮影をするなどした。
 開催期日 平成28年1月16日（土）～3月27日（日）
 入場者数 延べ 22,889人
- ⑨ 企画展 「春一番！ひな山」
 内 容 大淀川流域の民俗文化への興味・関心を高めるために、大淀川清流域の綾町で育まれた「ひな山」をエントランスホールに展示した。
 開催期日 平成28年2月6日（土）～3月6日（日）
 入場者数 延べ 11,054人

（4）作品募集と展示

- ① 作品展 第15回 大淀川流域の写真展
 内 容 流域の自然の姿への関心を高め、自然を大切にする心を育てるために、大淀川流域の動植物・風景等の写真を募集・展示した。
 応募数 252点
 開催期日 平成27年9月12日（土）～10月4日（日）
 入場者数 延べ 12,866人
- ② 作品展 第21回 大淀川流域の動植物画コンクール入賞作品展
 内 容 大淀川流域の動植物に対する興味・関心を高めるとともに、動植物を観察する力を育てるために、大淀川流域に生息・生育する動植物の精密画を募集・展示した。
 応募数 2,405点
 開催期日 平成27年10月10日（土）～11月23日（月・祝）
 入場者数 延べ 16,937人
- ③ 作品展 第11回小・中学校川の学習展
 内 容 大淀川流域の環境に対する関心を高めるため、小中学校で行われている総合的な学習の時間等でまとめた、河川に関する実態等の学習成果を募集・展示した。
 応募数 11点
 開催期日 平成27年12月1日（火）～平成28年1月11日（月・祝）
 入場者数 延べ 9,711人

（5）川のシアター

内 容 大淀川の自然環境への興味・関心を高めるため、4本の番組（A 大淀川の自然を訪ねて、B 大淀川の水と生き物たち、C 大淀川の生き立ちと生き物、D 母なる川～大淀川～ D 小笠原の海）をオリジナルの立体ハイビジョンにて上映した。

- ① 定常上映
 一日5回、定時に上映した。
- ② 特別上映
 団体上映：団体の来館時間に応じ、また、都合がつく限り番組も調整して上映した。
 臨時上映：繁忙期など来館者が多い場合には、上映回数を増やした。

(6) 里山の^{がっこう}楽校

多目的施設「杉の家」、地層観察コーナー、野草コーナーなどを設置し、動植物の観察、地層観察など、幼稚園や保育所等の園児、小学校の児童が中心に活用した。現在は、敷地にかかる部分で下北方浄水場の造成工事が行われており、今後について関係機関と協議を進めている。

3 学校対応事業

学校、保育所等の教育、保育課程に沿った支援活動を行うことによって、教育効果を高めることを目的として実施した。

(1) 授業支援

対 象 保育園・小学校等

実施回数 7回

参加者数 延べ 786人

内 容 チョウの生態や地層の学習について、本物の良さを最大限生かしつつ、館で作成したワークシートを用いて学習指導を行った。

(2) 指導者支援

対 象 小・中学校教諭等

実施回数 3回

参加者数 延べ 70人

内 容 チョウとメダカについての生態観察や飼育方法に関する内容、宮崎層群の成り立ちに関する内容について、先生方に講義・演習を行った。

(3) 子ども会・PTA支援

対 象 子ども会やPTA関係者等

実施回数 14回

参加者数 延べ 758人

内 容 展示に関する説明や自然をテーマにした簡単な工作活動を行った。

(4) 出前授業等

対 象 児童館や地域づくり協議会等

実施回数 9回

参加者数 延べ 339人

内 容 植物を使ったものづくりや野外活動・生き物の講座を行った。

4 教室事業

自然に対するの興味・関心を高めるとともに、環境に対する理解を深めることを目的として行った。

(1) 環境教室

対 象 小学生以上

実施回数 5回

参加者数 延べ 100人

内 容 「川の生き物で水質調査」「ホタル環境調査」「上下水道局で楽しく環境学習」「大淀川水質環境パックテスト」「大淀川源流から巡る自然・文化・環境教室」を行った。

(2) 飼育・観察教室

対 象 小学生以上
実施回数 4回(※明りに集まる昆虫観察は、雨天により中止)
参加者数 延べ 77人
内 容 「メダカの飼育・観察教室」「バスで行くオオムラサキ野外観察会」「カブトムシ・クワガタムシの飼育教室」「水辺の生きもの観察会」を行った。

(3) 活動教室

対 象 小学生以上
実施回数 6回(※大淀川でカヌーをしよう!は、台風により中止)
参加者数 延べ 252人
内 容 「食べられる野草さがしてみよう!」「ミツバチのハチミツを採取しよう!」「アユの稚魚放流しよう!」「大淀川河口で釣りをしよう!」「ハーブティーを楽しもう!」「シイタケの駒打ちを体験しよう!」を行った。

(4) ものづくり教室

対 象 小学生以上
実施回数 12回
参加者数 延べ 272人
内 容 「ペットボトルで工作しよう!」「伝統あるホタルかごを作ろう!」「昆虫標本を作ろう!」「石で工作しよう!」「植物標本を作ろう!」「貝殻で工作しよう!」「植物でウェルカムボードを作ろう!」「野鳥の巣箱を作ろう!」「牛乳パックで年賀はがきをつくろう!」「まっぼっくりでクリスマスツリーを作ろう!」「カラー魚拓を製作しよう!」「ミツロウでオリジナルキャンドルを作ろう!」を行った。

(5) 園児教室

対 象 幼稚園や保育所等の園児
実施回数 26回
参加者数 延べ 1,437人
内 容 生体を見たり触れたりする活動と簡単な工作活動を行った。

5 イベント事業

連休や学校の休業日を利用して、学習館の利用を促進するとともに、自然に親しみ、水環境に対する関心を高めることを目的として行った。

(1) 季節のイベント

対 象 全来館者(内容により年齢制限を設けているものもある)
実施回数 15回
参加者数 延べ 774人
内 容 「カブトムシの幼虫を育てよう」「グリーンアドベンチャー」「ザリガニ釣りに挑戦」「ミニ釣り大会」「カブトムシ・クワガタムシのクイズ大会」「カブトムシ・クワガタムシのすもう大会」「小魚すくい大会」「アユのつかみどり大会」「水辺の楽校フリスビー大会」「大淀川ウォークラリー」「ふれあいコンサート」「ふれあいもちつき大会」「昆虫輪投げ大会」「大淀川学習館検定」「チョウとおともだちになろう」を行った。

(2) ふれあいウィークエンド

対 象 全来館者

実施回数 24回

参加者数 延べ 750人

内 容 「紙コップを使って遊ぼう(2回)」「ミニ鯉のぼりを作ろう」「新聞紙でかぶと飾りを作ろう(3回)」「季節の花で押し花かざりを作ろう」「葉っぱで遊ぼう(2回)」「てんとうむしマグネットを作ろう(3回)」「バランストンボを作ろう(2回)」「タネ模型を飛ばそう」「七夕飾りを作ろう」「針金アメンボを浮かせよう(3回)」「木の実でコマを作ろう(2回)」「お正月飾りを作ろう」「かんたん凧作り」「ハイドロカルチャーにチャレンジ」を行った。

6 その他の事業

(1) 学校教育との連携

小中学校の校外学習への支援事業や学校教育における生活科、理科、総合的な学習の時間における環境学習など、ハード・ソフトの両面から学校教育の支援を図るとともに、各種研修の対応についても内容の充実を図った。

来館学校

小学校	77団体	延べ来館者	5,870人
中学校	2団体	延べ来館者	84人
特別支援学校他	3団体	延べ来館者	120人
幼稚園等	215団体	延べ来館者	6,676人
合 計	297団体	延べ来館者	12,750人

(2) カブトムシの幼虫プレゼント(宮崎科学技術館との連携)

宮崎科学技術館のこどもの日無料開館に合わせ、科学技術館の受付にて「カブトムシの幼虫プレゼントチケット」を配布し、翌日、大淀川学習館にチケットを持参した子どもにカブトムシの幼虫(館にて産卵させ飼育したもの)をプレゼントした。

開催期日 平成27年5月5日(火・祝)

参加者数 延べ 子ども24人

(3) 子どものための音楽会(事務局経営戦略課事業)

協会が管理運営する6施設において、乳幼児とその保護者が気軽に参加できる演奏会を、地元アーティスト等による生演奏により開催した。各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とした。

開催期日 平成27年12月3日(木)

内 容 アンサンブル宮崎(弦楽器、パーカッション、キーボード)による演奏

参加者数 子ども157人、大人159人 延べ 316人

(4) 各種関係団体等との連携

開館当初からの関係団体である「宮崎自然愛好会」や市内各地域にあるホタル保存会をはじめ「宮崎内水面漁業協同組合」「宮崎市カヌー協会」「日本野鳥の会」、元当館職員など多くの関

係団体より協力を受け、連携しながら各教室などを行った。

(5) 情報提供と広報活動

ICT（情報通信技術）を積極的に活用し、SNS（ブログ、フェイスブック）を用いた情報提供や広報活動を行った。

7) 宮崎市民プラザ

1 管理運営事業

平成27年度は、当協会が宮崎市民プラザの指定管理者として再指定を受けて2年目となる。管理運営については「公平・公正な管理運営」「満足度の高い管理運営」「安心・安全で効率的な管理運営」の3つの基本方針を定め、利用者サービス向上による利用者増対策に重点的に取り組むとともに、利用者が安全・快適に利用できるよう施設の管理運営を行った。

(1) 利用状況

開館日数	308日
入館者数	249,913人
1日平均入館者数	811人

(2) 利用内訳

・ ホール	入場者数	65,248人	(利用率 79.54%)
・ ギャラリー	入場者数	51,311人	(利用率 96.09%)
・ 練習室①	入場者数	14,126人	(利用率 83.12%)
・ 練習室②	入場者数	4,920人	(利用率 97.40%)
・ 大会議室	入場者数	19,788人	(利用率 94.16%)
・ 中会議室	入場者数	10,642人	(利用率 95.45%)
・ 小会議室①	入場者数	6,707人	(利用率 97.73%)
・ 小会議室②	入場者数	5,585人	(利用率 95.78%)
・ 和室	入場者数	6,115人	(利用率 90.26%)
・ 学習室	入場者数	5,662人	(利用率 84.42%)
・ プレイルーム/授乳室	入場者数	525人	
・ カフェクレーン	入場者数	7,166人	
・ エントランス	入場者数	3,123人	
・ 市民活動センター	入場者数	34,915人	
・ 団体室	入場者数	5,769人	
・ ホール(打合せ)	入場者数	476人	
・ ギャラリー(打合せ)	入場者数	57人	
・ 窓口受付	受付人数	7,560人	
・ 視察者等	47団体	218人	
	合計	249,913人	

2 自主事業

自主事業については、「創造・制作事業の実施」「普及・育成事業の実施」「鑑賞事業の実施」の3つの取組方針を定め、公益目的事業と地域活性化の更なる推進に重点的に取り組むとともに、施設の特徴を生かした事業を実施した。また、当館が開館15周年を迎えたことから、記念事業にも取り組んだ。

(1) 企画推進委員会の実施状況

<p>第1回 平成27年10月8日(木) 宮崎市民プラザ 学習室</p> <p>(1) 平成27年度宮崎市民プラザ自主事業計画について</p> <p>(2) 平成28年度宮崎市民プラザ自主事業計画<案>について</p>
<p>第2回 平成28年3月15日(火) 宮崎市民プラザ 学習室</p> <p>(1) 平成27年度宮崎市民プラザ自主事業の実施状況について</p> <p>(2) 平成28年度宮崎市民プラザ自主事業計画について</p>

(2) 自主事業実績

	事業名	開催日・場所等	入場料	入場者数
1	劇団ベテカン演劇公演 蛍の頃	平成27年7月11日(土) 平成27年7月12日(日) オルブライトホール	一般/2,000円 (当日2,400円) 学生/1,000円 (当日1,200円)	(11日)455人 (12日)481人
2	開館15周年記念 市民プラザコンサート	平成27年8月30日(日) オルブライトホール	入場券/500円 (当日600円)	472人
3	市民プラザ寄席 小遊三・歌春二人会	桂歌春の落語教室(アウトリーチ) 平成27年9月25日(金) 綾小学校6年生 生目小学校5年生	無料	73人 75人
		平成27年10月4日(日) オルブライトホール	一般/2,000円 (当日2,400円) 学生/1,000円 (当日1,200円)	374人
4	宮崎・音のスケッチブック ～秋のヒーリングコンサート～	平成27年10月18日(日) 橘公園噴水広場	無料	202人
5	ダンボール人形劇場 お花のハナックの物語	新聞紙を使った劇あそび (アウトリーチ) 平成27年12月18日(土) きよたけ児童文化センター	無料	60人
		平成27年12月19日(日) オルブライトホール	おとな/1,000円 (当日1,200円) こども/500円 (当日600円)	411人
6	開館15周年記念 樫本大進&コンスタンチン・リフ シッツ デュオリサイタル	平成28年2月4日(木) オルブライトホール	指定席/4,000円 (当日4,800円) 自由席一般/3,000円 (当日3,600円) 自由席学生/1,500円 (当日1,800円)	524人

7	市民プラザ コドモチャレンジスクール	スクール 平成27年9月～ 平成28年3月 練習室、和室	受講料/13,000円	落語クラス7人 ダンスクラス15人 演劇クラス9人
		発表会 平成28年3月27日(日) オルブライトホール	無料	216人
入場者数 合計				3,374人

3 その他の事業

子どものための音楽会（事務局経営戦略課事業）

協会が管理運営する6施設において、乳幼児とその保護者が気軽に参加できる演奏会を、地元アーティスト等による生演奏により開催した。各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とした。

開催期日 平成27年8月20日(木)

内 容 銀島弓、稲森愛(ピアノ)による演奏

参加者数 子ども236人、大人214人 延べ 450人